

管内月間火山概況（平成 20 年 9 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

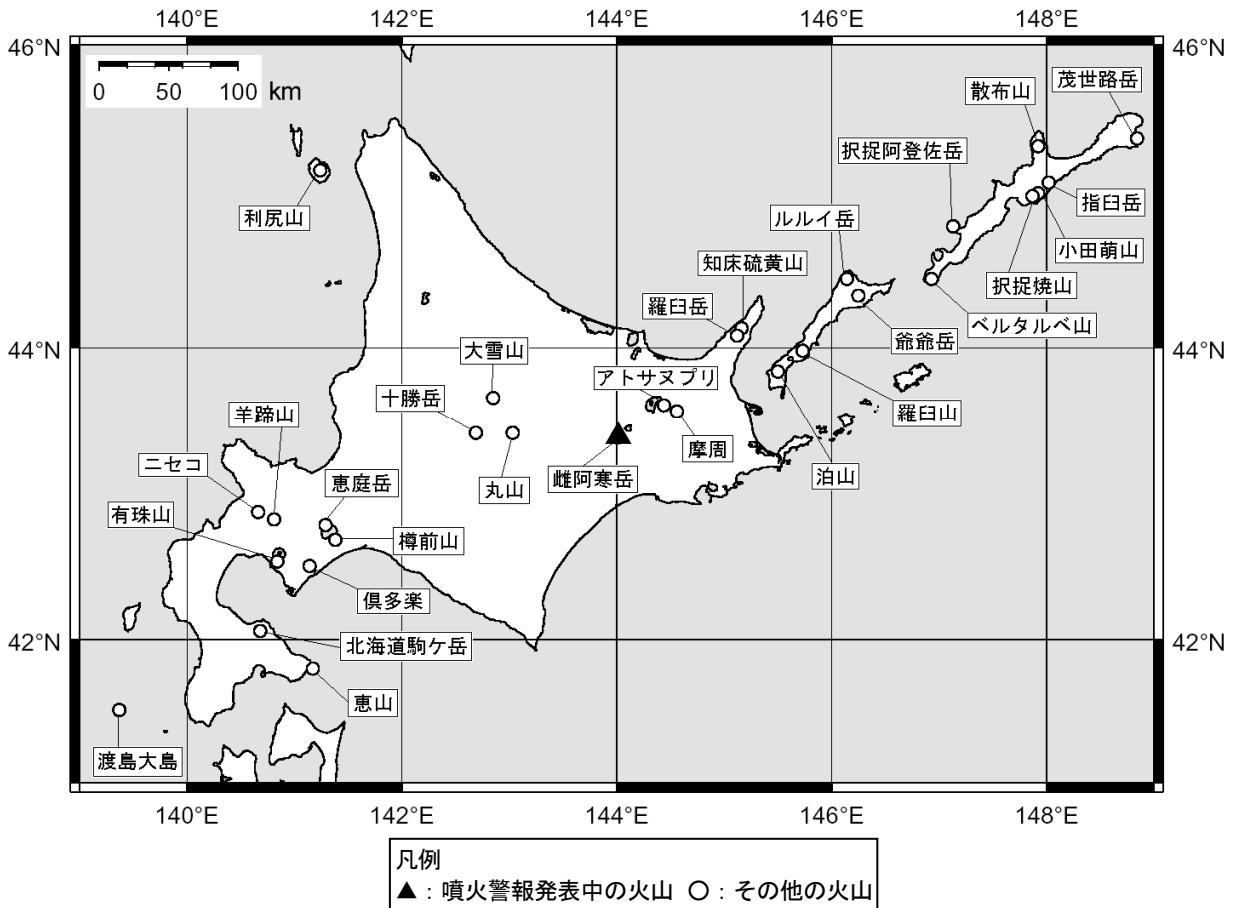
噴火警報及び噴火予報の発表状況

火口周辺警報（火口周辺危険）：雌阿寒岳

噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）：樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳

（平常）

：知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、
十勝岳、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、
渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、
択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入しています。

この管内月間火山概況は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 20 年 10 月分）は平成 20 年 11 月 7 日に発表する予定です。

この資料は気象庁の他、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道、北海道立地質研究所及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

各火山の活動及び予報警報事項

雌阿寒岳では、29 日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。その他の予報警報事項に変更はありません。

知床硫黄山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

羅臼岳〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

雌阿寒岳〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

26 日以降、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加しました。29 日 14 時 11 分頃には振幅のやや大きな火山性微動が発生、直後から火山性地震が多発したことから、火口周辺に影響する程度のごく小さな噴火の可能性が高まったとして、29 日 14 時 30 分に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。

その後、火山性微動は観測されていません。火山性地震の発生状況は、10 月 6 日現在、低調になっています。噴煙は火口縁上 100m 以下で低調に推移し、GPS 観測による地殻変動の状況には特段の変化は認められません。

雌阿寒岳では、1988 年、1996 年、2006 年のごく小さな噴火が火山性地震の増加・減少を繰り返した後に発生していることから、今後しばらくの間は、ごく小さな噴火の可能性がありますので、ポンマチネシリ火口から 500m 程度の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

十勝岳〔噴火予報（平常）〕

62-2 火口付近では浅部の膨張を示すと考えられる局所的な膨張が 2006 年以降継続しており、2008 年になってからも継続しています。

地震活動は静穏で、噴煙活動や熱活動に特段の変化はなく、広域の地殻変動も観測されておりません。現在噴火の兆候は認められておりませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

山頂火口原内の溶岩ドームの A 火口及び B 噴気孔群では高温の状態が続いていると推定されます。溶岩ドーム及びその近傍では、火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。

倶多楽〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

恵山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。